

会報ひまわり

創刊第6号

目次

- 1:療育知識〈上手なルールの守らせ方〉
- 2:支援者向け講座を終えて〈代表からのコメント〉

療育知識〈上手なルールの守らせ方〉

前回の会報では、ルールの大切さに触れた上で、ルールを作るうえでの注意事項について記載してきました。

そこで、今回は、子どもに対してルールを守らせる上で、より効果的な知見を記載していきたいと思います。

約束(ルール)を守る(1)

約束を守るとは、ここでの対象は、子どもではなく、「保護者の方や周囲の関係者」を指します。

約束とは、特に子どもとの約束に関して、大まかに分析すると「～したら～するよ」「～したら～になるよ」という形で子どもに提示することが基本となるかと思います。

つまり、行動と結果の因果関係を提示することで、約束、つまりルールを作っていくと解釈することができます。

そのようにして提示した約束は、こちらが絶対に守ることで子どものルールに対する理解がより一層促されます。

例えば、褒めるときでは「お手伝いしたら〇〇できるよ」などと子どもに伝えることをよく耳にします。

そこで、子どもがお手伝いした場合、〇〇できなければ子どもの動機は失われるでしょう。

このように考えていくと、褒美を控える際「お手伝いしなければ〇〇できないよ」などでも、結果的にその褒美が控えられない(〇〇できないと言ったが実はできた)場合、子どもにとっては約束を守らなくても問題が無くなり、結果的に約束を守る動機は失われるでしょう。

ルールが機能しなくなると子どもは当然約束を守りにくくなりますし、逆にルールが機能すれば約束を守っていける傾向があります。

つまり、子どもに約束を守ってもらい、ルールを構築していくためには、保護者の方や周囲の関係者が提示した約束、つまり作ったルールを守るようにしていくことが大切です。

約束(ルール)を守る(2)

ルールを構築するうえで最も大切なことは

- ①こちらが守れるルールであること
- ②少し頑張れば子どもがルールを守れる内容であること

であります。

こちらが守れないルールでは、ルールとして機能していませんし、子どもが守れないルールでも、やはりルールとして機能することはできません。

また、以上に紹介した内容は、言葉を獲得していない子ども達にも同様のことが言えます。

子どもの発達状態に限らず、ルールを構築するためにこちらが決めたことを実行することは非常に大切なことであり、個にあったルールを作っていくことで、少しずつ確実にルールを理解できるようになっていきます。

だからこそ、ルールを構築するためには、個の発達の物差しで考えるとともに、環境的に無理なく実行できるルールを構築していくことが大切です。

支援者向け講座(思春期編)を終えて

支援者向け講座(思春期編)の全講義が終了いたしまして、当会の代表でもあり、今回の講師をつとめました尾串光康からのコメントがありますので、ご紹介させていただきます。

当会・NPO 法人ひまわりの会代表尾串光康から

今回の支援者向け講座は、講座を発表してから数日程度で定員に到達し、思春期の対応について興味関心を持っている方々にお会いすることができ嬉しく思いました。

子どもの様々な発達ステージにおいて、周囲の理解により、たくさん指導・援助のカードがあり、個にあわせた取り組みにより、改善に導いていくことができるということは、これまでの臨床の中で実感としてもっています。

そこで、今回は思春期をピックアップし、支援者の方に対して講義を開催しました。

講義の内容は、具体的な思春期の子ども達の援助方針を作成するうえでの基盤や、2次リスクへの抑止や問題への対応を主として講義しました。

思春期の子ども達への対応を行っていくためには、「早期的な療育が大切である一方で、同時に早期的な対応ができなかった場合でも、周囲がしっかり協力していくことにより、問題を解決に導いていける」ことをメインとして、その中で支援者はどのように考えていけば良いのかを伝えられたので、今回の講義を開催できたことは私にとっても非常に有意義でした。

ご参加いただきました皆様へ、この場をお借りして、あらためまして御礼申し上げます。